

2022 年度 事業報告書

1 事業実施の概略

りたは、市民及び市民団体、企業が行う社会貢献活動を促進し、市民・企業・行政が相互に参加や協力するまち育てを支援することで、岡崎市の協働型社会づくりを促進することを目的として掲げている。

そして、その目的を実現するため、りたは、市民自治の観点から地域自治と多様な市民活動を支援し、地域社会での連携・協働の推進に積極的な役割を果たすことや、社会の幸福をめざし市民・企業・行政が連携・協働のもとにそれぞれの役割と責任を担う「新しい公共」の理念を社会に浸透させ、「持続可能な社会」につながるまち育てを進めていくことを使命としている。

2022 年度にりたが取り組んだ主な事業は、以下のとおりである。

- ・市民協働まちづくりを推進するための拠点施設を運営する地域交流センター（5 館）指定管理事業と
りぶら市民活動センター運営事業
- ・地域の担い手不足などの喫緊の課題を地域で解決していくことを支援する乙川リバーフロント地区
まちづくりデザイン事業（籠田公園・中央緑道周辺地区の地域経営支援）、地域包括ケアシステム支
援業務、下山地域運営組織設立支援事業
- ・岡崎市が公民連携による公共空間の利活用を進める公園愛護運営会設立支援等業務、東岡崎駅周辺
まちづくりシンポジウム運営業務、乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン事業（全国川サミッ
ト）
- ・これまで培ってきた市民協働のノウハウを活かし、県内各地域でのまちづくり推進、地域課題の解決
を支援するまち育ての専門家派遣事業

以下、本年度に掲げた注力すべき 3 つの主要テーマに沿って、主な成果を記す。

テーマ1 地域活力を高める

市民活動および地域活動の拠点施設（地域交流センター）の管理運営を通じて、市民自治・地域自治の礎となる地域の担い手を掘り起こし、市民活動団体による公益活動の場づくり、中学生・高校生・大学生の社会参加の場づくり、市民活動や地域活動へのボランティアマッチング（まちびとバンク）を推進した。

日常的な窓口業務や情報の受発信、事業実施により蓄積されたネットワークを活かし、地域の課題解決や地域資源を活用する担い手を掘り起こし、市民協働型社会の実現に向けた活動を行った。

【該当事業】地域交流センター指定管理、まちびとバンク、高校生まちづくりプロジェクトほか

テーマ2 地域資源を活かす

河川、公園、道路などの公共空間、そしてそうした場所を積極的に活用する市民、団体、事業者を地域の資源としてとらえ、公共空間のより豊かな使われ方を見出し、その場所ならではの価値として意味付け、それらを具現化し、持続させるための活動と結びつけ、地域の魅力向上に貢献した。

【該当事業】全国川サミットシンポジウム（乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン事業の一部として）、東岡崎駅周辺地区シンポジウム運営業務、公園愛護運営会設立支援等業務ほか

テーマ3 地域課題を解決する

少子高齢化、空き家の増加、防災、子育て支援など、山積する地域課題に対して、地域包括支援センター、岡崎市社会福祉協議会、学区福祉委員会など既存の担い手との連携や、社会貢献意欲のある個人や団体、ボランティアなどの担い手の発掘およびマッチングを通じて、地域の課題解決を支援した。

【該当事業】地域包括ケアシステム支援事業、籠田公園・中央緑道周辺地区の地域経営支援業務（乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン事業の一部として）、下山地域運営組織設立支援事業、市民活動センター運営業務ほか

各事業の詳細は以下に記す。

2 事業の実施に関する事項

(2022 年度 実施事業一覧)

定款項目	事業名
ア まち育てに関する相談や助言事業	アー 1 りぶら市民活動センター運営事業
イ まち育てに関する学習機会の提供事業	イー 1 まち育てインターン受入事業
ウ まち育てに関する情報収集と発信事業	(該当事業なし)
エ まち育ての専門家の育成と派遣事業	エー 1 まち育てコーディネーター養成事業 エー 2 まち育ての専門家派遣事業
オ まち育てに関する調査研究、政策提言事業	オー 1 公園愛護運営会設立支援等業務 オー 2 地域包括ケアシステム支援業務
カ 市民と企業と行政をつなぐまち育て支援事業	カー 1 乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン事業 カー 2 下山地域運営組織設立支援事業 カー 3 高校生まちづくりプロジェクト カー 4 東岡崎駅周辺まちづくりシンポジウム運営業務 カー 5 「名古屋市瑞穂公園陸上競技場整備事業」パークマネジメント活動業務 カー 6 「三郷駅前周辺まちづくりデザイン意思決定支援業務」に関するコンサルティング カー 7 公園緑地整備交付金事業費の内公園マネジメント会議運営補助業務
キ まち育てを支援する拠点施設の管理運営事業	キー 1, 2, 3, 4, 5 岡崎市地域交流センター (北部・南部・西部・東部・六ツ美分館) 指定管理事業

ア まち育てに関する相談や助言事業

アー1 りぶら市民活動センター運営事業

(ア) 事業内容

りぶら市民活動センターは、「協働する意欲のある市民の参画意識の醸成と市民活動全般の活性化を支援する」ことを目的とした岡崎市受託事業である。業務内容としては、①市民活動支援

(情報収集及び提供、窓口相談、講座等の実施等)、②情報ひろば(市民活動団体の情報を掲載した WEB ページ)の運用管理、③地域交流センターとネットワーク形成(会議運営等)等を行っている。

(イ) 実施時期 2022 年 4 月～2023 年 3 月 開館日の 9:00～21:00

(ウ) 実施場所 岡崎市図書館交流プラザ・りぶら 2 階市民活動総合支援センター内

(エ) 従事者 稲葉(4 月～6 月センター長)、岡田(7 月～3 月センター長)、鈴木千、高木、辻村、山崎、岩川(本部付出向)

(オ) 事業収入 9,344,192 円(岡崎市からの事業受託費より繰り入れ他 担当課:市民協働推進課)

(カ) 成果

今年度も、コロナ禍における感染防止対策を継続しながら業務を行った。

一つ目の取り組みとして、新型コロナウイルスの影響を受け市民活動団体等の活動が停滞していたものの、ボランティア意識の向上が継続して見られる情勢を受け、市民活動サポート研修として「プロボノ研修」を実施した。個人の専門知識やスキルを活かして社会貢献をする人(プロボノ)の活性化を目的として開催したこの研修では、実際の実践例や体験談を聞くことで、「社会への新しい関わり方」の一つとして公益活動を促進させるための一助となったと考えられる。また、交流を通じてプロボノを必要とする団体からはニーズを、社会貢献活動に関心のある方からはプロボノとして意欲の度合いを直接表明してもらうことができ、それぞれがマッチングするための今後への足掛かりとすることができた。

二つ目の取り組みとしては、情報発信事業として実施した情報誌「まちのワ!」発行(地域交流センターと合同発行)と事業者連携(東海愛知新聞社)である。今年度より隔月に発行され市内全戸回覧となった情報誌「まちのワ!」では、2 ページにおいてボランティア体験の取材記事やまちびとバンクについての詳細記事を掲載し、ボランティアに参加しやすい情報を提供するとともにボランティアに関する意識向上に努めた。また、事業者連携では、東海愛知新聞社の協力により 7 月～3 月に発行した東海愛知新聞に市民活動団体の紹介記事を掲載し、各市民活動を活性化させるための一助とすることができた。

その他、事業の実施結果については、次の図表に示す。

業務名／事業名	内 容	時 期	参加者
市民活動情報の収集及び提供	・ポスター・チラシの受付、掲示・配架 ・市民活動団体向けメルマガジン発行 ・市民活動センターホームページの更新	通 年	チラシ等の受付: 716 件 メルマガ: 登録団体(257 団体)に年 9 回送付※臨時号含む
市民活動相談	市民活動に関する相談対応を行った。	通 年	相談件数: 131 件
市民活動情報ひろば入力支援	市民活動団体向けに、情報ひろばの利用促進を狙い、窓口にて入力支援を行った。	通 年	対応件数: 66 件※延べ件数
市民活動団体の登録、変更、廃止受付	市民活動団体を作りたい市民へのアドバイス、登録申請の受付、既存団体の登録変更、廃止の受付を行った。	通 年	新規: 5 件 変更: 69 件 廃止: 13 件 ユーザー追加: 19 件

まちびとバンク事業(ボランティアマッチング)	ボランティアをしたい市民とボランティアを必要としている団体のマッチングを行いボランティア活動の促進に努めた。	通 年	新規登録：4 名 依頼：61 件（地交分） 35 件（市活分） マッチング： 2,449 件（地交分） 431 件（市活分）
まちびとステージ	自分の経験・特技を活かせる場所を積極的に探している個人に対して、活躍場所のマッチングを行った。	通 年	依頼：5 件 マッチング：3 件
もののものバンク事業	不用品を提供いただき、必要としている団体にマッチングすることで団体が抱える「モノ」不足を解消することに務めた。	通 年	<譲ります> 受入:12 品、成立:11 件 <レンタル用物品> 受入:0 品、成立:22 件 <探しています> 受入:7 件、成立:1 件
市民活動サポート研修「プロボノ研修」	個人の専門知識やスキルを活かして社会貢献をする人「プロボノ」の活性化を目的として、講習にてプロボノの概要を学び、実践例を聞きながら出演者および参加者の交流する機会を創出した。	10 月 29 日	総来場者 22 名 参加者 9 名 講師・出演 7 名（5 団体） その他 6 名
情報発信事業「情報誌（まちのワ！）発行」、「事業者連携（東海愛知新聞社）」	地域交流センターと合同発行の「まちのワ！」において、取材や情報収集を行い市民活動の活性化のため記事を掲載した。また、事業者（東海愛知新聞社）と連携し、市民活動団体の紹介記事を東海愛知新聞に掲載し、情報発信を行った。	通 年	<情報誌記事掲載> P1（11 月号） P2・P4（7・9・11・1・3 月号） <東海愛知新聞掲載> 9 回（7-3 月/毎月 1 回） 掲載団体：78 団体

イ まち育てに関する学習機会の提供事業

イー1 まち育てインターン受入事業

(ア) 事業内容

今年度は下記 2 つのインターンプログラムにおいてインターン生の受け入れを行った。事業収入は 0 円（事業支出は一般管理費より充当）

①NPO 法人アスクネットからのインターン受入れ

- ・プロジェクト名：安城学園高等学校商業科コース 2022 年度「BIG プロジェクト」インターンシッププログラム
- ・実施期間：2022 年 7 月 28 日（木）、29 日（金）、30 日（土）
- ・受入人数：2 名
- ・事業概要：安城学園高等学校商業科コース 1 年生を対象に、進路選択に役立てるだけでなく、地域の方とつながりを持ち、社会の一員として自覚が芽生えることをねらいとしたインターン生 2 名の受入協力を行った。
- ・主な従事業務：むらさきかん×SDGs「応用編」
- ・成果：多様な主体が連携しながら SDGs を推進していく必要性と、それらの活動を促進・

支援する役割の重要性を理解していただいた。

②愛知県2年目職員研修

- ・愛知県職員の研修生（就職2年目職員）を対象に、インターン研修を通じて「まちの学習機会」を提供し、受講者のまちづくりリテラシーを高めるプログラムの受入先として参加。2年の中止を経て、今回は事前に撮影した本法人の活動紹介映像を研修会で放映し、活動を啓発した。

ウ まち育てに関する情報収集と発信事業

（該当事業なし）

エ まち育ての専門家の育成と派遣事業

エー1 まち育てコーディネーター養成事業

（ア）事業内容

今年度新たに入社したスタッフに対し、岡崎市内の NPO/市民活動の潮流とりたの位置づけや業務の概要等について解説し、中間支援組織の一員として業務に従事できるよう教育を実施した。一方、管理職者向けには、定例会議の場を利用してミニ勉強会を開始し、りたの事業展開・岡崎市内のまちの課題を共有し、意見交換を行った。

（イ）実施時期

新人研修 2023年2月17日、3月3日・16日（全3回）

管理職向け 2022年4月8日、6月10日、8月12日、9月9日、10月14日、11月11日、
12月9日、2023年1月13日、2月10日、3月10日（全10回）

（ウ）実施場所 岡崎市地域交流センター（北部、南部、西部、東部、六ツ美）他

（エ）従事者

新人研修：（講師）天野、三矢、深田、平岩

（受講者）柳田（西）、図師（東）、杉浦（六）、辻村（市活）高柳・清家（事務局）

管理職向け：（講師）天野、三矢、藤岡、石田、阪口

（受講者）築瀬、大久保、深田、平岩、藤岡、伊藤、石田、小早川、阪口、粟生、
磯貝、稲葉、岡田

（オ）協働先：なし

（カ）事業収入 0円 （事業支出は一般管理費より充当）

（キ）成果

新人：りた職員に求められる基本的な考え方や基礎的な知識を習得。多岐に渡るりたのまちづくりにおける中間支援の概要に触れることで、職員としての自覚を促した。

管理職：事業のプロジェクト担当者（リーダー）から、事業のポイントや課題分析を直接聞き、意見交換をすることで、まち育てコーディネーターとして地域に関わる意義を改めて認識し、その方法論を学んだ。

なお、当年度もセンター長以上のスタッフを主な対象として、外部研修を積極的に活用した。地域交流センターらの施設運営・事業企画に役立てるとともに、まち育てコーディネーターとし

での知見・ネットワークを広め、地域交流センター・市民活動センターの施設役割強化につなげることができた。

例として、「災害ボランティアコーディネーター養成講座」（岡崎市社会福祉協議会）

「ソーシャルビジネスセミナーin 東海市」

（東海市ソーシャルビジネス支援ネットワーク）

「NPO マネジメントスクール ～広報・PR～」（愛知県・社会活動推進課）

NPO のためのアドバイザー講座「ポストコロナ『これからの市民活動のカタチ』」

（名古屋市市民活動センター）

エー2 まち育ての専門家派遣事業

（ア）事業内容

岡崎市近郊での講義や岡崎市内の先進事例の紹介、各種委員会や審議会への助言ならびに政策提言を担った。

（イ）実施時期 2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

（ウ）会 場 岡崎市、名古屋市、小牧市

（エ）従事者 築瀬、大久保、天野、三矢、深田、平岩、石田、小早川

（オ）事業収入 291,810 円（各機関・団体等より受託）

（カ）成果

市内で実践した成果が県内の各地域や国などからの評価につながり、その評価を踏まえ、市内の他地区へのノウハウ移転や他の地域課題に対する複合的な解決策の提示を推進することができた。

〔専門家派遣リスト〕

（天野担当分 2 事業）

- ・ 柏アーバンデザインセンター「岡崎市 QURUWA 戦略地区視察」（7/15）
- ・ 愛知県「地域課題の解決に向けた多様な主体による連携・協働促進会議」（11/18）

（三矢担当分 1 事業）

- ・ 愛地球博記念公園マネジメント会議／愛知県／総会・コア会議・ワークデイ（6/7、8/2、10/20、11/29、3/2）

●委員会等での助言

（大久保担当分 1 事業）

- ・ 岡崎市市民協働推進委員会（6/18、3/4）
- ※同委員として岡崎市市民公益活動事業費補助金 審査会（3/4）

（天野担当分 4 事業）

- ・ 岡崎市景観審議会（7/21、11/15）
- ・ 乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン会議（8/1、10/18、12/20、2/14）
- ・ 乙川リバーフロント地区かわまちづくり協議会（8/25、3/30）

- ・岡崎市景観整備機構連絡協議会（12/23）

（三矢担当分 3 事業）

- ・岡崎市地域福祉計画事業検討部会（3/25）
- ・岡崎市公園協議会（5/16、8/4、9/21、11/22、1/20）
- ・岡崎市生涯学習推進委員会（9/29）

（深田担当分 2 事業）

- ・岡崎市歴史まちづくり協議会（3/23）
- ・岡崎市文化財保存活用地域計画協議会（3/7）

（平岩担当分 1 事業）

- ・岡崎市部活動地域移行検討会（2/28）

（石田担当分 1 事業）

- ・岡崎市観光基本計画推進委員会（9/29、2/17）

（小早川担当分 1 事業）

- ・社会福祉法人岡崎社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会（8/4）

オ まち育てに関する調査研究、政策提言事業

オー1 公園愛護運営会設立支援等業務

（ア）事業内容

岡崎市緑の基本計画に基づき、公園の管理と活用を推進する組織「公園愛護運営会」の設立の可能性を調査し、設立準備会が立ち上がった地区に対して愛護運営会の設立支援を行った。

（イ）実施時期 2022 年 4 月～2023 年 3 月

（ウ）実施場所 岡崎市内

（エ）従事者 三矢、小早川、石田、阪口、岩川、斉藤、長谷川

（オ）事業収入 4,004,000 円（岡崎市からの事業受託費より繰り入れ 担当課：公園緑地課）

（カ）成果

今年度は、新たな公園愛護運営会設置箇所の検討として、矢作公園（地区公園のため本来は公園愛護運営会設置の対象ではないが、会の設立の対象となり得るかどうかを含め検討）を取り上げた。公園愛護運営会設立の支援はさくら公園（地元から設立したいとの相談があり、支援を行なった）、公園を特定しないボランティア団体の設立検討として、「公園を限定しない組織の仕組み検討（春咲 3 公園）」「既存の愛護運営会の活動状況と課題の把握（戸崎公園、駅南中央公園、檜山公園、岩津北公園、北斗台 4 公園）」を行なった。

オー2 地域包括ケアシステム支援業務

（ア）事業内容

「高齢者が安心して暮らせるまちづくり」に向けて岡崎市は、市内 20 の地域包括支援センター（以下、「包括」）の設置運営を進めてきた。包括は、地域団体、ボランティア、医療機関、教育機関を巻き込んだ「地域包括支援システム」の構築を進めている。りたは生活支援体制構築事業（第 1 層）を担う立場から、地域包括支援センターの活動（会議ファシリテーション、広報）支援を行った。

（イ）実施時期 2022 年 4 月 10 日～2023 年 3 月 31 日

（ウ）実施場所 岡崎市内各地

（エ）従事者 三矢、天野、小嶋、長谷川

（オ）事業収入 4,130,000 円（岡崎市からの事業受託費より繰り入れ 担当課：ふくし相談課）

（カ）成果

1. 全 20 の地域包括支援センターに向けたロジックモデル策定支援

※ロジックモデルとは、事業が成果を上げるために必要な要素を体系的に図式化したもの。

事業活動の意義や段階ごとの目標、その有効性・効果を示す根拠材料となる。

（1）今年度（令和 4 年）のロジックモデル策定支援（個別訪問）

地域包括支援センターの事業推進力を高めるべく、全地域包括支援センター（20）を対象として、前後期毎に現地に訪問し、ロジックモデル策定支援を行った。

（2）次年度（令和 5 年）のロジックモデル策定支援（集合形式）

- ・2022 年度の重点事業について、ロジックモデルの策定や一部事業評価を行った。
- ・年度の終盤（2023 年 2 月 27 日）に、「2023 年度の重点事業に関するロジックモデル」の作成相談 DAY（通称：包括相談 DAY）を開催した。15 の地域包括支援センターが相談 DAY に参加し、重点事業の戦略強化ができた。

2. 広報支援

（1）真福包括

- ・広報物（広報紙、チラシ）作成支援：

作成委員会の会議へ出席し、意見交換や助言を行った。作成工程や紙面構成などを妥当な方向へ導いたことで、「読みやすくなった」という評価を得た。また情報発信のだけでなく、地元住民の声等の情報収集のためにも紙面を使用し、地域との関係づくりの一端を担うことで、多角的な広報を実践してもらえた。チラシは、今後も使用できる内容である夏季注意喚起用の「熱中症と食中毒」の作成を支援。

（2）ひな包括

- ・地域発行物（暮らしの便利帳）作成支援：

作成委員会の会議へ全て出席して意見交換や助言を行った。作成工程や紙面構成などを妥当な方向へ導き、発行物は「非常に完成度が高い」との評価を得た。りたがレイアウトや文章作成などの実作業を支援することで、技術提供も行うことができた。

- ・広報物（広報紙）作成支援：

コンセプト設定に重点を置くため、企画を検討する広報会議に出席。コンセプトが事前に定まることでの的外れな内容になることは、ほぼ無くなった。さらに作成された初校に対し、修正案の作成、提案を行った。修正案をもとに作り直す作業を行うため、内容の完成度が高くなり、それにつれて職員の技量もアップした。また毎回内容が異なるため、広い紙面を使用する特集記事はレイアウトに難しさもあるが、今まで発行してきた広報紙のレイアウトを参考にするこ

とで、一定のクオリティーを保てる状態になっている。

(3) 高年者包括

・広報物（広報紙）作成支援：

作成された広報紙（2回／1回目は発行後、2回目は発行前）に対して、提案、助言を行い、評価の高い広報誌を発行できた。また、具体的な見本を作成したことで、目的毎に変化する文章見本により、メッセージを設定する企画の大切さを実感してもらったほか、読者目線を考慮したレイアウトのテクニックなど、今後役立つ工程や技法を伝えたことで、高年者包括のみならず福祉事業団が管轄する他の包括に展開されて好評を得た。

3. 岡崎市ふくし相談課との協働

(1) ゴールデンシニア人生ゲーム：

ゲームの内容の検討、マスの文言を短くするリライトを中心に、その後の校正作業などを行なった。T社との打合せに参加したほか、ゲームの試行の場にも赴き、参加者（高齢者）と話をし、現場スタッフ、作成スタッフと意見交換をしながら改良を重ねてゲームの完成に協力した。完成後はPR活動にも協力した。

(2) 包括パンフレット：

・包括の仕事と20包括を紹介するパンフレットについて助言を求められたため、情報の重複の解消をして包括の紹介スペースを増やす提案（ラフ作成）を行った。

カ 市民と企業と行政をつなぐまち育て支援事業

カー1 乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン事業

(ア) 事業内容

籠田公園・中央緑道周辺地区における地域住民自らによるエリアマネジメントの推進支援（7町・広域連合 次世代の会の運営支援）、かわまちづくりの普及啓発事業（全国川サミットのシンポジウム企画・運営）を行うことにより QURUWA 戦略の推進を図った。

(イ) 実施時期 2022年7月～2023年3月

(ウ) 実施場所 岡崎市中心市街地

(エ) 従事者 天野、三矢、長谷川、加納、岩ヶ谷、岩川

(オ) 協働先 7町・広域連合／次世代の会、おかすけねっと、studio36、スコシズツ、プロジェクト、ONE RIVER、あいち橋の会、Snowpeak Business Solutions、国立大学法人名古屋工業大学 伊藤孝紀研究室 など

(カ) 事業収入 8,052,000円（岡崎市からの事業受託費より繰り入れ 担当課：都市施設課）

(キ) 成果

- ・次世代の会の運営体制と効果的かつ効率的な会議体の構成（QURUWA サンキン会＝社交の場、QURUWA 全体会議＝全体像の把握、プロジェクト会議＝イベント部会を軸にした定例の調整会議）を確立した。
- ・QURUWA アワードの企画・運営を通じて、2022年の次世代の会の活動の全体像が見える化し、担い手同士が互いに労い、刺激を受け、新たな活力を生み出す仕組みを構築した。
- ・全国川サミットにおいて、岡崎市のかわまちづくりの経緯と成果（川の関係人口の創出）を紹介

し、パネルディスカッションでは今後の展望として人と川の関係性の深化を提示した。

カー2 下山地域運営組織設立支援事業

(ア) 事業内容

下山学区の持続可能な地域づくりに向けて、岡崎市下山学区地域づくり協議会及び4つの部会（農用地保全、生活支援、地域資源活用、施設活用）の運営支援、旧JA下山支店の活用イメージの検討及び地域将来ビジョン（案）の作成を行った。

(イ) 実施時期 2022年6月～2023年3月(3ヵ年を予定)

(ウ) 実施場所 下山学区

(エ) 従事者 岩ヶ谷、天野、阪口、岩川

(オ) 協働先 岡崎市下山学区地域づくり協議会、岡崎市社会福祉協議会、山田農園

(カ) 事業収入 5,003,900円（岡崎市下山学区地域づくり協議会からの事業受託費より繰り入れ 担当課：中山間政策課）

(キ) 成果

- ・地域づくり協議会及び4部会の運営支援を通じて、地域将来ビジョン（案）及び各部会の行動計画（案）を定めた。
- ・農用地部会として、農業体験プログラム「となりの田んぼ」の参加者を募集したところ、定員5組に対し72組が応募し、30組を受け入れることになった。
- ・地域団体「^{もっこ}畚の会」が生活の困りごと解消を支援するために立ち上げた「生活たのみ隊」を軸に、生活支援部会として移動支援の仕組み検討を実施。2023年4月から、岡崎市社会福祉協議会よりダイハツ提供の福祉車両（軽ワゴン）を1年間無償貸与され、通院、通学、買い物などの移動支援を実施していくことが決定。
- ・施設活用部会として、第2回下山のより良い未来を考えるワークショップを通じて、旧JA下山支店の具体的活用イメージを検討した。大広間スペースに厨房カウンター等を整備し、農業を軸とした地域交流や関係人口創出のために活用していく。また、地元有志により和室スペースを活用してよもぎ蒸しサロンを開設。

カー3 高校生まちづくりプロジェクト

(ア) 事業内容

岡崎市在住の高校生有志13名による、地域のつながりの活性化を目指す「高校生まちづくりプロジェクト」が実施するイベントの振り返り及びプロジェクトを総括するワークショップの企画・運営を支援した。

(イ) 実施時期 2022年6月～2023年3月

(ウ) 実施場所 岡崎市内

(エ) 従事者 天野

(オ) 協働先 7町・広域連合会 次世代の会

(カ) 事業収入 499,400円（岡崎市からの事業受託費より繰り入れ 担当課：ふくし相談課）

(キ) 成果

- ・QURUWA ティーンズフェスの振り返り会を通じて、事前準備と当日運営の成果（円滑な運営を可能にした役割分担の明確化及び柔軟な対応力）と課題（集客・広報、資金調達、メンバー間の情報共有の仕組み）を明らかにし、改善策を精査した。

- ・若者の語り場 2023 の企画・運営を通じて、本プロジェクトメンバーと QURUWA 内で活動する大学生（名古屋工業大学、愛知学泉大学）、7 町・広域連合会及び次世代の会等、世代を超えて岡崎の魅力やまちづくりの提案を話し合う場をつくることができた。

カー4 東岡崎駅周辺地区まちづくりシンポジウム運営業務

(ア) 事業内容

行政、地域住民・事業者、関連企業等が一体となって、東岡崎駅周辺まちづくりを推進するための機運醸成を図り、まちづくり基本計画におけるエリアビジョン更新のヒントを得ることを目的としてシンポジウムを開催した。

(イ) 実施時期 2022 年 8 月～2023 年 3 月

(ウ) 実施場所 岡崎市明大寺本町ほか 33 箇町地内

(エ) 従事者 天野、加納、岩川

(オ) 協働先 7 町・広域連合会、RFA、アフタヌーンソサエティ、商い創造研究所

(カ) 事業収入 1,881,000 円（岡崎市からの事業受託費より繰り入れ 担当課：拠点整備課）

(キ) 成果

- ・シンポジウムには 108 名（一般参加者 82 名、関係者 26 名）が参加。参加者アンケートによると、参加者の属性は「事業者」が最も多く（46%）、次いで「一般市民」（15%）、「まちづくり系団体・コンサル」「行政関係」（13%）という層に対し、東岡崎駅エリアの特性（市内トップの地価を誇る繁華街である一方、人口減少・高齢化などの空洞化が進行）やポテンシャルなどの理解を深めることができた。
- ・「これから大切にしたいキーワード」ベスト 3 は、『「ローカルファースト」に基づく地域経済循環』、『駅とまちと川の一体的なまちづくり』、『次世代へのバトンリレーを促す「豊かな子育て環境」』であった。今後、地域住民、事業者、関係機関と共にこれらを踏まえ、東岡崎エリアの将来像を検討していく。

カー5 「名古屋市瑞穂公園陸上競技場整備事業」パークマネジメント活動業務

(ア) 事業内容

瑞穂運動公園の再整備を進める PFI 事業において、代表企業である竹中工務店は、公園のアクティビティを促進する仮設的な施設（仮称・PLOT）の計画策定にあたり、その活用推進を期待できる主体に対してヒアリング調査を行うこととした。このため、この活用促進を担う候補者の選定や実際にヒアリングを行い、仮称・PLOT の可能性や方向性、運営方法に関する知見を得る調査検討業務を支援した。

(イ) 実施時期 2022 年 4 月～2023 年 3 月

(ウ) 実施場所 ヒアリング対象となった 20 団体の活動拠点（名古屋市内）ほか

(エ) 従事者 三矢、名畑

(オ) 事業収入 880,000 円（西武造園株式会社からの事業受託費より繰り入れ）

1,100,000 円（株式会社竹中工務店からの事業受託費より繰り入れ）

(カ) 成果

- ・20 の個人、団体にヒアリング調査を行った結果、仮称・PLOT の構想を高度化することができた。具体的には「空間的な進化（休憩所相当のレギュラーサイズにとどまらず、スタジアムの造形との連携や、モバイル可能な小型 PLOT の可能性まで）」「時間的な進化（計画段階への市

民参加」や「実証実験をし、使いながらつくり方を考える」といったダイナミックな PLOT デザイン手法への展開)」が得られた。

- ・さらに、ヒアリングをさせてもらった主体を類型化することができ（プレーヤー・非営利／プレーヤー・営利／プロデューサー／アドバイザー）、PLOT の運営段階において、多様な関わり方があることを可視化することができた。

カー6 「三郷駅前周辺まちづくりデザイン意思決定支援業務」に関するコンサルティング

(ア) 事業内容

尾張旭市は三郷駅前開発事業の推進に際し、愛知県立芸術大学とまちづくりに関する協定を締結した。愛知県立芸術大学はこれを受け、「愛知県立芸術大学受託事業三郷駅前周辺まちづくりデザイン意思決定支援業務（以下本事業）」により、地権者を含む三郷駅周辺市民らが駅前開発事業区域及びそれを核とした近隣のまちづくりのより良い計画作成に貢献しようとしている。本事業はこれらを踏まえ、再開発基本計画への市民意見の反映を念頭に、各種のデザインワークショップ、社会実験、フォーラムを開催した。

(イ) 実施時期 2022 年 4 月～2023 年 3 月

(ウ) 実施場所 尾張旭市役所ほか

(エ) 従事者 三矢、加納

(オ) 事業収入 2,366,100 円 （愛知県公立大学法人からの事業受託費より繰り入れ）

(カ) 成果

- ・デザインワークショップ（DAY1、DAY2）を経て、駅周辺の空間と活用の関係性を整理した「17 のデザインランゲージ」を作成。この デザインランゲージを用いて、駅周辺の空間の使い方を整理し、駅前再開発の ABC 街区の特徴づけ、方向性について提案をまとめた。こうした提案は、再開発組合との調整、協議に活用された（市民提案を踏まえ、芸大チームの中でブラッシュアップを図り、9 つの空間テーマとして、特色ある駅前づくりを提示した）。
- ・デザインワークショップでの議論を仮設的に具現化する社会実験を開催した。電車が間近で見られる空間特性を活かして「仮称・電車パーク」をイベント的に再現し、駅前活用の市民コミュニティ形成に寄与したほか、駅前再整備に向けた実証的な知見を得た。
- ・年度の成果取りまとめとなるフォーラムも開催した。ゲスト講師に、東京大学の村山先生（都市計画）や名古屋円頓寺の市原氏（建築家）を迎え、駅周辺まち育ての進め方について、情報共有、方向性の共有ができた。

カー7 公園緑地整備交付金事業費の内公園マネジメント会議運営補助業務

(ア) 事業内容

愛地球博記念公園マネジメント会議（NPO、企業、大学、行政など総勢 70 程度の会員が参加）の会議ファシリテーション支援を行なった。

(イ) 実施時期 2022 年 5 月～2023 年 3 月

(ウ) 実施場所 地球市民交流センターほか

(エ) 従事者 三矢

(オ) 事業収入 614,900 円 （日本工営都市空間株式会社からの事業受託費より繰り入れ）

(カ) 成果

- ・昨年度からの継続で、コア会議内に設置された「MAP 班（園内の魅力発信となる MAP の作成と

提示)」「SNS 班（園内の魅力発信の基盤構築として、関係者の情報共有の場をオンライン上に設置、運営）」の活動支援を行い、昨年度策定した計画の具現化を図った。

- ・愛・地球博記念公園では、園内の一角にジブリパークが開園し、人の流れが激変した。こうした人の流れについて愛知県公園緑地課とも情報を共有し、駐車場やバス停の接点となる場所に掲示板を設置し、園内の魅力発信の実装が始まった（掲示板の設置は行政、コンテンツの運用は NPO が主導）。
- ・マネジメント会議の会員それぞれが持っている園内の細かな変化や情報について共有するインフラを設置、運用することができた。

キ まち育てを支援する拠点施設の管理運営事業

キー1,2,3,4,5 岡崎市地域交流センター(北部・南部・西部・東部・六ツ美分館)指定管理事業

(ア) 事業内容

「市民活動を活性化させることにより市民相互の交流を促進し、活力に満ちた地域社会の実現に寄与する施設」である岡崎市地域交流センターを、指定管理者として管理運営を行った。市民活動の支援、市民サービスの拡充を目的として、貸館業務、市民活動の啓発や発展につながる研修や交流会、イベント、情報誌「まちのワ！」の発行や SNS などを通じて、市民活動や地域活動の情報の受発信を行った。

- (イ) 実施場所
- 岡崎市北部地域交流センター・なごみん
 - 岡崎市南部地域交流センター・よりなん
 - 岡崎市西部地域交流センター・やはぎかん
 - 岡崎市東部地域交流センター・むらさきかん
 - 岡崎市地域交流センター六ツ美分館・悠紀の里

- (ウ) 開館日時 火曜日～日曜日（月曜定休が基本） 9:00～21:00

(エ) 従事者

統括管理責任者	深田
事業運営責任者	平岩
施設保守管理責任者	高柳
【なごみん】	伊藤（センター長）、加藤（副センター長）、 神谷、田中、市川、吉開、岩城、田邊
【よりなん】	石田（センター長）、平井（副センター長）、 永井、石本、鈴木麻、青山、石野、小野田、吉田
【やはぎかん】	小早川（センター長）、安藤（副センター長）、 水澤、鈴木田、柳田、山中、松野、中西、野倉
【むらさきかん】	阪口（センター長）、遠竹（副センター長）、 浦野、手嶋、図師、亀山、鈴木孝、鈴木雅、中島
【悠紀の里】	磯貝（センター長）、鈴木紀（副センター長）、粟生 吉岡、杉浦千、久永、本村、宮碕、天野俊、山本澄、堀井、山本勝
施設保守・修繕	岡田、鈴木二、清家、黒田
高度相談対応職員	天野裕、三矢、藤岡、岡田、長谷川、小嶋、斉藤

拠点担当総務 藤岡、永谷、近藤、杉浦佳、小谷

(オ) 事業収入 168,349,729 円

(岡崎市からの事業受託費他より繰り入れ他 担当課：市民協働推進課)

(カ) 事業の実施概要・成果

①市民活動に関する相談等

市民活動相談などの件数は、下表のとおり。市民活動相談について、全センターで125件を目標としたが、市民活動の節目である年度末の時期になって相談件数が増え、目標数値を達成できた。今後も、市民活動相談を窓口で受け付けていることを館内掲示するとともに、情報誌や地域交流センターホームページに掲載していく。

	北部	南部	西部	東部	六ツ美	合計
市民活動相談	24	24	40	20	20	128
アウトリーチ	9	14	33	11	13	80
苦情・クレーム	1	5	7	0	3	16

②市民活動に関する研修及び交流事業の企画立案

(1)市民活動の支援や推進に係る研修

事業名	実施場所	実施日	実績・内容
情報発信力強化研修 ①チラシ作りのコツ ②インスタグラムを活用しよう ※計画時の「動画作成の基礎」から変更	なごみん	5/21、 11/12	①参加者数：5 団体 5 人／講師：1 人 ②参加者数：6 団体 7 人／講師：1 人 効果的な広報活動を行うスキルの向上を目的とした情報発信に関する研修会の応用編を開催した。基礎編では発信したい内容の絞り方を学び、応用編では、インスタグラムを活用した発信のコツについて、「共育サロン・学びんパーク」の方が実践しながら教えた。
組織マネジメント強化研修～市民活動いちから講座～ ①はじめてみよう市民活動 ②団体運営の勘どころ	よりなん	5/14、 6/11	①参加者数：4 団体 4 人／講師 1 人 ②参加者数：6 団体 6 人／講師 1 人 市民活動や市民協働の基本的な考えを学び、団体運営能力向上を目的とした組織マネジメントに関する研修会を基礎編と応用編に分けて 2 回開催した。7 月には、研修に出ていない人に向けた内容共有の展示会を開催した。
資金調達力強化研修 ①基礎編 ②応用編	やはぎかん	7/30、 8/20	①参加者数：6 団体 16 人／講師：1 人 ②参加者数：6 団体 9 人／講師 3 人 資金調達能力向上を目的に、おカネの問題に関する研修会を開催。基礎編では、助成金申請の心得やテクニックを学び、応用編では、共感を得るためのプレゼンのコツ、ならびに社会福祉協議会に助成金情報を解説してもらうことで、理解を深めた。
SDGs 研修 ①基礎・基本編	むらさきかん	7/2、 7/30	①参加者数：8 団体 13 人／ボランティア 5 人、講師 1 人

②応用編			②参加者数：7 団体 10 人／ボランティア 10 人、講師 1 人 愛知県政策企画局や光ヶ丘女子高校と協働し、SDGs について学び、「知っているからやっている」に発展させることを目的とした研修会を基礎編と応用編に分けて 2 回開催した。さらに、言葉を文字に同時変換する UD トークを活用して聴覚障害者の支援をしている団体と協働し、耳が聞こえない人向けに講座内容を同時通訳した。
IT 利活用研修 ①無料クラウドツールを市民活動にフル活用しよう編 ②無料クラウドツールの実践・応用編	悠紀の里	1/14、 2/18	①参加者数：9 団体 17 人／講師：1 人 ②参加者数：10 団体 15 人／講師：1 人 事務の負担を軽減し活動そのものを充実させることを目的に、IT 利活用に関する研修会を開催。基礎編では、Google 無料ツールの活用方法を学び、応用編では実際に使ってみる演習により、理解を深め、活動への導入への機運を高められた。

(2)市民活動団体の連携の推進及び強化につながる交流事業

事業名	実施場所	開催日	実績・内容
地域活動サミット ～歴史探求者の集い～	なごみん	2/25	参加者数：12 団体 47 人／出演者：5 団体 5 人 地域の魅力向上や活力ある地域づくりに取り組む団体による事例発表会を開催。消えゆくガラ紡の歴史や岩津松平の歴史を後世に残すための活動をしている団体が活動を発表した。開催後、現地案内や協働を希望する人が複数現れ、発表団体とのマッチングが成立した。
高齢者支援ネットワーク交流会	よりなん	11/9	参加者数：15 団体 17 人、冊子掲載 29 団体／ボランティア 5 人 高齢者支援の活動に取り組む団体が集まり、普段の活動共有やテーマトークを通して支援ネットワークの構築を目的とした交流会を開催。また、高齢者支援につながる活動をしている 29 団体の活動情報をまとめた冊子を発行し、交流会参加者以外の市民にも情報発信を行った（冊子は交流センター・りぶらに配架）。
防災交流会 ～助け合い・支え合いを考えよう～	やはぎかん	6/12	参加者数：16 団体 90 人／ボランティア 11 人／出展：6 団体 6 人／講師 2 人 防災課、社会福祉協議会、岡崎城西高校と協働し、災害時に自分達ができることを考える交流会を開催した。グループトークでは、防災系団体に限らず、子育て支援や太極拳、絵手紙、ボーイ・ガールスカウト、大学生など、多様な主体がともに意見を交わした。
活躍人！交流会 ～豊かな自然を未来へ～	むらさきかん	6/18	参加者数：17 団体 18 人／講師：2 人 任意団体 ONE RIVER と協働し、環境分野で活躍する団体の連携の輪を広げる交流会を開催した。グループトークでは、17 団体が車座になり、活動内容や悩みを共有した。

ゆきファミリーパーク ～親子で楽しく体験・交流～	悠紀の里	10/16	参加者数：804 人／出展数：16 団体 83 人／ボランティア 62 人 子育て支援の団体と協働して、子育て世代向けのイベントを開催。企画・運営を通じて子育て支援に関わる団体の相互理解の向上とネットワーク強化につながったと同時に、当日の体験等を通して参加者に対して子育て支援に関する有益な情報を発信できた。
-----------------------------	------	-------	---

③地域と連携した市民活動の活性化に寄与する事業

事業名	実施場所	実施日	実績・内容
なごみん横丁	なごみん	8/9、10	参加者数：399 人／ボランティア：69 人（うち協働企業・団体数：3 高校、5 社、2 団体） 市民活動団体や企業と協働して、子どもたちが自ら考え行動するまちづくりイベントを開催。ボランティア募集には光ヶ丘女子高校、岡崎商業高校、岩津高校が協力。企業・団体連携では、マルサンアイ・小幡建設・東海愛知新聞社・ナグ・花王プロフェッショナルサービス・岩津地区婦人自主防災クラブ・さくらくらぶが参加し子どもたちに“仕事”を提供するなど、多様な主体と協働して3年ぶりに開催し、子どもと地域の接点を創出できた。
聾学校×地域 協働創出事業 「なごみんつながるプロジェクト」	なごみん	8/17、26	参加者数：4 団体 9 人／ボランティア 2 団体 38 人 岡崎聾学校と地域との連携を生み、地域活動の活性化を目的とした手話交流会を開催。今回は岩津地区婦人自主防災クラブと協働し、防災をテーマに、災害時に不安なことや意思疎通の方法等について意見交換した。
町内会サミット	よりなん	1/22	参加者数：25 人／出演者：6 団体 6 人／ボランティア 4 人 町内会活動の誇れる点を発表し、他町の創意工夫を学び、活動の負担軽減を考える意見交換会を開催。岡崎学区、羽根学区、小豆坂学区の総代会長が自町の取り組みを発表し、意見交換では役員の選出方法やゴミ出しの工夫など細かい意見交換もなされ、他町からの参加者からも参考になったという評価が得られた。
矢作地域活動支援事業	やはぎかん	通年	支援対象：7 団体／出展者：17 名／ボランティア：17 名／来場者：36 名／講師：4 名 地域活動を行っている「子ども食堂」「花のとう実行委員会」「山車保存会」「矢田農園」等

			を支援対象とし、年間を通した伴走支援で組織運営や活動に関する課題を洗い出し、それに対する改善方法とともに検討した。いずれの団体も資金調達や活動が広がらないという課題があったため、資金調達に関する勉強会や市民への情報の露出を増やす機会の創出等を行った。
SB/CB 交流会 ～コミュニティビジネスのススメ～	むらさき かん	2/4	参加者数：29 団体 32 人／出演者：3 団体 3 人 コミュニティビジネス（CB）に関心ある方同士の交流や活性化を目的に、CB の基礎と実践 3 例を学んだ。参加者は複数名で 1 チームとなって話し合い、講師とも質疑応答の時間を設けることで、互いの交流と連携が図られ、CB への関心や起業の機運が高まった。
藤川まちづくり協議会協働展示会 「むらさき麦まつりのトリセツ展」	むらさき かん	5/10～ 5/15	参加者数：9 団体 105 人（作品数）／ボランティア 34 人／来場者数 147 人 藤川まちづくり協議会と協働し、同協議会の活動 PR および地域資源であるむらさき麦の PR、むらさき麦を活用した協働事例等を紹介する展示会を実施した。実施後に、むらさき麦の細工展示団体と見学者のマッチングが成立した。
六ツ美地域自慢交流会	悠紀の里	9/4	参加者数：11 団体 50 人（うち発表 4 団体 5 人）／ボランティア 5 人 多様な主体の協力体制を創出・強化することで六ツ美地域全体の地域活動活性化を目指し、地域で活躍する 4 団体による活動発表と参加者も含めた関係構築のための意見交換会を開催。また、発表や意見交換の内容をまとめた報告冊子を六ツ美地域に回覧し、本会に参加しなかった市民（六ツ美 4 学区 45 町）にも情報共有を行った。

④周年記念事業

事業名	実施場所	実施日	実績・内容
やはぎかん 15 周年記念イベント 「市民活動フェス」	やはぎかん	3/4	参加者数：223 人／出展者：23 団体 61 人／ボランティア 6 人 市民活動団体等の出展ブースや展示による活動啓発に地域団体や地域商店によるマルシェを加えたイベントを開催。活動団体と市民が直接対話し活動を啓発できる機会を提供した。手作り展示パネルの素材(紙管)は近隣事業者からの寄付、スタンプラリーの景品は参加団体からの寄付で賄うなど多様な関わり方でともにイベントを作り上げた。

開館 10 周年記念事業 「むらさきかんまつり」	むらさきかん	9/11	参加者数：1,008 人／出展数：23 団体 112 人／ボランティア 60 人（事前含む） 市民活動の啓発・促進を目的に、市民活動団体の出展ブースやパネル展示による活動啓発に加え、これまで蓄積した東部エリアの地域活動・市民活動情報を発信するイベントを開催。体験等を通して市民活動団体や地域団体と市民が交流し、市民活動にふれられる機会となった。
-----------------------------	--------	------	---

⑤情報誌の発行及び配布

市民活動の促進につながる有益な情報や市民活動団体の活動 PR 等の情報をまとめた情報誌を 2 ヶ月に 1 回、奇数月に発行。市内全町への回覧に加え、市内の各支所や市民センター、小中学校、その他市内外の NPO や市民センターへ配付するなど、広く発信することで市民活動の活性化に寄与した。1 回あたり約 15,000 部発行。年 6 回発行により、年間で約 90,000 部発行。

- ・5 月号 特集：地域交流センター・市民活動センターの機能、各センター特徴紹介
- ・7 月号 特集：桜城橋ふき（中央地域）
- ・9 月号 特集：矢作神社 山車の曳航（西部地域）
- ・11 月号 特集：第三土曜は三土市へ行こう！（中央地域）
- ・1 月号 特集：悩める子育て、頼ろう！市民活動団体（六ツ美地域）
- ・3 月号 特集：地域の未来と次世代を育む「絆の森」（東部地域）

⑥施設ボランティア・環境演出事業

各センターで、市民がボランティアとして施設運営に参画し活躍できる場として「ふれあいひろば」を行い、花壇の整備や館内装飾などセンターの特色に合わせて受け皿を創出した。新型コロナウイルス感染拡大の影響で夏場まで中止していた交流スペースでのサロンも秋頃から再開し、活動団体と来館者の交流の場ならびに自己表現の場を設けた。

環境演出の他にも、交流イベント等の提案事業へのボランティアの受け入れも行った結果、全センターでの年間目標 1,540 名に対して 2,449 名となり目標を達成できた。

3 法人運営に関する事項

(1)総会

ア 第17回通常総会

- (ア) 開催日時及び場所 2022年6月30日(木) 10:30～11:30
岡崎市図書館交流プラザ・りぶら 103 会議室
- (イ) 議題＜審議事項＞ ①2021年度 事業報告書(案)及び決算書(案)について
②2022年度 役員体制(案)について
③2022年度 事業計画(案)及び事業予算(案)について
④役員給与の支払額(案)について

(2)理事会

ア 第1回理事会

- (ア) 開催日時及び場所 2022年6月3日(木) 10:30～11:30
岡崎市図書館交流プラザ・りぶら 201 会議室
- (イ) 議題＜審議事項＞ ①2021年度 事業報告書(案)及び決算書(案)について
②2022年度 役員体制(案)について
③2022年度事業計画書(案)及び事業予算(案)について
④役員給与の支払額(案)について
⑤常勤職員の夏季賞与(案)について
⑥決算時期の変更(案)について

イ 第2回理事会

- (ア) 開催日時及び場所 2022年6月30日(金) 11:30～11:40
岡崎市図書館交流プラザ・りぶら 103 会議室
- (イ) 議題＜審議事項＞ 理事長・副理事長の選定について

ウ 第3回理事会

- (ア) 開催日時及び場所 2022年9月1日(木) 10:30～12:00
岡崎市図書館交流プラザ・りぶら 302 会議室
- (イ) 議題＜報告事項＞ ①2022年度事業計画の進捗状況
＜審議事項＞ ①2022年度拠点運営パートタイム労働者の賃金改定(案)について
②パートタイム労働者就業規則の改正(案)について

エ 第4回理事会

- (ア) 開催日時及び場所 2022年11月29日(火) 10:30～11:10

岡崎市図書館交流プラザ・りぶら 302 会議室

- (イ) 議題＜報告事項＞ ①2022 年度事業計画の進捗状況
②2022 年度上半期決算について
＜審議事項＞ ①常勤職員の冬季賞与（案）について

オ 第5回理事会

- (ア) 開催日時及び場所 2023 年 3 月 2 日(木) 10：30～11：30
岡崎市図書館交流プラザ・りぶら 301 会議室
(イ) 議題＜報告事項＞ ①事業進捗報告(10 月～12 月分) 及び 2023 年度事業概要につ
いて
＜審議事項＞ ①2023 年度職員の昇給(案)について
②2023 年度 4～6 月 暫定活動予算書(案)について
③職員就業規則等の改正（案）について

法人名： 特定非営利活動法人岡崎まち育てセンター・りた

活動計算書

令和4 年 4 月 1 日 ～ 令和5 年 3 月 31 日 まで

(単位:円)

科 目	金 額			備 考
I 経常収益				
1. 受取会費				
正会員受取会費	207,000			13団体、個人19名
賛助会員受取会費	49,000	256,000		3団体、個人3名
2. 受取寄附金				
受取寄附金	611,556	611,556		日本NPOセンターソフト導入支援
3. 受取助成金等				
受取助成金	0	0		
4. 事業収益				
1) まち育て推進事業収益				
学習機会事業	499,400			岡崎市高校生まちづくりプロジェクト
調査研究事業	6,121,000			地域包括ケアシステム支援・東岡崎シンボリズム運営・草津川跡地公園公募支援
対話協働事業	22,170,500			リバーフロント地区まちづくりデザイン・地域付来ビジョン策定・公園愛護運営会設立支援
2) 市民活動支援事業収益				
相談助言事業	9,344,192			りぶら市民活動センター運営
拠点運営事業	168,349,229			岡崎市地域交流センター(東・西・南・北・ハッポ美分館)指定管理
3) その他事業収益				
情報発信事業	3,000			岡崎百景冊子・りたブックレット2販売
専門家派遣事業	291,810	206,779,131		景観審議会・市民協働推進委員会 他
5. その他収益				
受取利息	594			岡崎信用金庫・東海労働金庫 普通預金 利息
雑収益	500	1,094		備品売却
経常収益計			207,647,781	
II 経常費用				
1. 事業費				
(1) 人件費				
給料手当	93,450,491			
法定福利費	7,370,447			
人件費計	100,820,938			
(2) その他経費				
仕入	142,352			
外注費	46,329,268			
旅費交通費	842,606			
通信費	457,702			
消耗品費	5,976,035			
会議費	10,668			
賃借料	997,200			
支払手数料	421,370			
保険料	70,207			
支払報酬	200,500			
新聞図書費	624,283			
修繕費	68,474			
租税公課	12,434,800			
寄付金	250,000			
研修費	75,000			
広告宣伝費	301,308			
雑費	106,390			
その他経費計	69,308,163			
事業費計		170,129,101		
2. 管理費				
(1) 人件費				
役員報酬	3,945,000			
給料手当	4,025,922			
法定福利費	2,301,194			
福利厚生費	2,315,318			
人件費計	12,587,434			
(2) その他経費				
外注費	100,920			
旅費交通費	141,000			
通信費	439,815			
消耗品費	1,439,805			
水道光熱費	190,435			
接待交際費	11,884			
会議費	9,300			
賃借料	1,943,740			
支払手数料	214,808			
諸会費	67,600			
保険料	195,600			
支払報酬	1,468,500			
新聞図書費	28,000			
租税公課	50,689			
減価償却費	131,816			
広告宣伝費	928,865			
費用弁償	175,000			
雑費	232,215			
その他経費計	7,769,992			
管理費計		20,357,426		
経常費用計			190,486,527	
当期経常増減額			17,161,254	
III 経常外収益				
1. 過年度損益修正益		0		
経常外収益計			0	
IV 経常外費用				
1. 雑損失		300,000		名古屋ふれあいユニオン解決金
2. 固定資産除却損		1		パソコン1台廃棄
経常外費用計			300,001	
税引前当期正味財産増減額			16,861,253	
法人税、住民税及び事業税			5,137,000	
当期正味財産増減額			11,724,253	
前期繰越正味財産額			41,813,788	
次期繰越正味財産額			53,538,041	

計算書類の注記

- 重要な会計方針
計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。
 - 固定資産の減価償却の方法
有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をしています。(取得価額が30万円未満である減価償却資産は、一定の要件のもとに一部損金処理しています。)
 - 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

- 事業別損益の状況
事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位:円)

科 目	学習機会事業	調査研究事業	対話協働事業	相談助言事業	拠点運営事業	情報発信事業	専門家派遣事業	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益										
1. 受取会費								0	256,000	256,000
2. 受取寄附金								0	611,556	611,556
3. 受取助成金等								0		0
4. 事業収益	499,400	6,121,000	22,170,500	9,344,192	168,349,229	3,000	291,810	206,779,131		206,779,131
5. その他収益					500			500	594	1,094
6. 事業費振替収入								0	19,489,276	19,489,276
7. 管理費振替支出	△ 150,985	△ 1,233,523	△ 4,214,204	△ 731,677	△ 13,152,375	△ 1,595	△ 4,917	△ 19,489,276		△ 19,489,276
経常収益計	348,415	4,887,477	17,956,296	8,612,515	155,197,354	1,405	286,893	187,290,355	20,357,426	207,647,781
II 経常費用										
(1) 人件費										
役員報酬								0	3,945,000	3,945,000
給料手当	167,184	1,587,863	5,480,419	6,938,783	79,025,403		250,839	93,450,491	4,025,922	97,476,413
法定福利費					7,370,447			7,370,447	2,301,194	9,671,641
福利厚生費								0	2,315,318	2,315,318
人件費計	167,184	1,587,863	5,480,419	6,938,783	86,395,850	0	250,839	100,820,938	12,587,434	113,408,372
(2) その他経費										
仕入					142,352			142,352		142,352
外注費		1,927,310	6,917,290	158,460	37,326,208			46,329,268	100,920	46,430,188
旅費交通費		59,392	209,260	9,390	561,224		3,340	842,606	141,000	983,606
通信費			120	168	457,414			457,702	439,815	897,517
消耗品費	6,245		115,920	48,616	5,805,254			5,976,035	1,439,805	7,415,840
水道光熱費								0	190,435	190,435
接待交際費								0	11,884	11,884
会議費					10,668			10,668	9,300	19,968
賃借料					993,050		4,150	997,200	1,943,740	2,940,940
支払手数料				18,480	402,890			421,370	214,808	636,178
諸会費								0	67,600	67,600
保険料					70,207			70,207	195,600	265,807
支払報酬		66,900		41,500	92,100			200,500	1,468,500	1,669,000
新聞図書費					624,283			624,283	28,000	652,283
修繕費					68,474			68,474		68,474
租税公課	42,037	159,836	1,272,475	752,540	10,183,677		24,235	12,434,800	50,689	12,485,489
減価償却費								0	131,816	131,816
寄付金			250,000					250,000		250,000
研修費					75,000			75,000		75,000
広告宣伝費				300	301,008			301,308	928,865	1,230,173
費用弁償								0	175,000	175,000
雑費					106,390			106,390	232,215	338,605
その他経費計	48,282	2,213,438	8,765,065	1,029,454	57,220,199	0	31,725	69,308,163	7,769,992	77,078,155
経常費用計	215,466	3,801,301	14,245,484	7,968,237	143,616,049	0	282,564	170,129,101	20,357,426	190,486,527
当期経常増減額	132,949	1,086,176	3,710,812	644,278	11,581,305	1,405	4,329	17,161,254	0	17,161,254

3. 活動原価の算定にあたって必要なボランティアによる役務の提供の内訳

2022年度 ボランティア利益換算

算定方法：単価は愛知県の当該年度最低賃金¥986

区 分	事 業 名	ボランティア		利益換算 (小計)
		延べ人数	延べ時間	
北 部	市民活動サポート研修	0	0.0	0
	地域活動サミット～歴史探求者の集い～	0	0.0	0
	なごみん横丁	69	345.0	340,170
	聾学校×地域 つながるプロジェクト	0	0.0	0
	ふれあいひろば	503	252.0	248,472
	情報誌「まちのワ！」発行事業	17	17.0	16,762
	市民活動団体情報発信事業	0	0.0	0
	オススの1冊展示会	0	0.0	0
	小 計	589	614.0	605,404
南 部	市民活動サポート研修	0	0.0	0
	高齢者支援ネットワーク交流会	5	6.5	6,409
	町内会サミット	4	13.0	12,818
	ふれあいひろば	311	256.0	252,416
	情報誌「まちのワ！」発行事業	0	0.0	0
	市民活動団体情報発信事業	0	0.0	0
	オススの1冊展示会	0	0.0	0
	小 計	320	275.5	271,643
西 部	市民活動サポート研修	0	0.0	0
	防災交流会	11	37.0	36,482
	矢作地域活動支援事業	17	35.0	34,510
	15周年記念イベント「市民活動フェス」	6	8.0	7,888
	ふれあいひろば	486	463.0	456,518
	情報誌「まちのワ！」発行事業	0	0.0	0
	市民活動団体情報発信事業	0	0.0	0
	オススの1冊展示会	0	0.0	0
	小 計	520	543.0	535,398
東 部	市民活動サポート研修	15	30.0	29,580
	ソーシャルビジネス交流会	0	0.0	0
	むらさき麦まつりのトリセツ展	34	34.0	33,524
	10周年記念イベント「むらさきかんまつり」	60	39.0	38,454
	ふれあいひろば	326	326.0	321,436
	情報誌「まちのワ！」発行事業	0	0.0	0
	市民活動団体情報発信事業	0	0.0	0
	オススの1冊展示会	0	0.0	0
	小 計	435	429.0	422,994
六ツ美	市民活動サポート研修	0	0.0	0
	ゆきファミリーパーク	62	84.0	82,824
	六ツ美地域自慢交流会	11	16.0	15,776
	ふれあいひろば	122	85.0	83,810
	情報誌「まちのワ！」発行事業	0	0.0	0
	市民活動団体情報発信事業	0	0.0	0
	オススの1冊展示会	0	0.0	0
	小 計	195	185.0	182,410
市 活	まちびとバンクシステム	4	157.0	154,802
	情報発信事業	0	0.0	0
	市民活動サポート研修	0	0.0	0
	小 計	4	157.0	154,802
まち丁	公園愛護運営会設立支援	44	140.0	138,040
	地域包括ケア支援	0	0.0	0
	瑞穂PFI	0	0.0	0
	三郷駅前まち育て	0	0.0	0
	モリコロ	0	0.0	0
	乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン業務	0	0.0	0
	高校生まちづくりプロジェクト	0	0.0	0
	中山間地関係人口創出プロジェクト	0	0.0	0
	東岡崎駅シンポジウム	0	0.0	0
	小 計	44	140.0	138,040
合 計		2,107	2,343.5	2,310,691

※2019年度より「ボランティアコスト換算」から「ボランティア利益換算」に名称変更

※2022年度より「運営ボランティア」の呼称を「ボランティア」に変更

※2022年度より日常業務に関わるボランティアは、施設ボランティアとして「ふれあいひろば」に含む

4. 使途等が制約された寄付金等の内訳
使途等が制約された寄付金等の内訳は以下の通りです。当法人の正味財産は53,538,041円ですが、そのうち2,000,076円は、下記のように使途が特定されています。したがって使途が制約されていない正味財産は51,537,965円です。

(単位:円)

内 容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備 考
基金事業	2,000,060	16	0	2,000,076	事業のための基金
合 計	2,000,060	16	0	2,000,076	

5. 固定資産の増減内訳
固定資産の増減は以下の通りです。

(単位:円)

科 目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
車両運搬具	1,067,643	0	0	1,067,643	△ 1,067,642	1
什器備品	1,071,040	0	153,820	917,220	△ 705,138	212,082
合 計	2,138,683	0	153,820	1,984,863	△ 1,772,780	212,083

6. 事業費と管理費の按分方法
各事業の経費及び事業費と管理費に共通する経費のうち、給与・賞与及び法定福利費については従事割合に基づき按分しています。

貸借対照表

令和5年3月31日現在

特定非営利活動法人 岡崎まち育てセンター・りた

単位:円

科目・摘要	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	59,722,881		
事業基金用預金	2,000,076		
商品	122,330		
未収金	13,165,284		
前払金	503,673		
流動資産合計		75,514,244	
2 固定資産			
車両運搬具	1		
什器備品	212,082		
長期前払金	8,400		
保証金	361,750		
固定資産合計		582,233	
資産合計			76,096,477
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	13,983,627		
預り金	222,809		
未払消費税	3,215,000		
未払法人税等	5,137,000		
流動負債合計		22,558,436	
負債合計			22,558,436
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		41,813,788	
当期正味財産増減額		11,724,253	
正味財産合計			53,538,041
負債及び正味財産合計			76,096,477

注1) 固定資産に関する減価償却計算の方法は、以下のとおり

1. 建物定額法
2. 建物附属設備定額法
3. 車両運搬具定率法
4. 什器備品定率法

財産目録

令和5年3月31日現在

特定非営利活動法人 岡崎まち育てセンター・りた

単位:円

科目・摘要		金額		
I資産の部				
1流動資産				
現金預金				
現金	現金手許有高	391,926		
普通預金	岡崎信用金庫本店	59,021,513		
普通預金	岡崎信用金庫岩津支店	20,000		
普通預金	岡崎信用金庫上地支店	15,798		
普通預金	岡崎信用金庫矢作支店	19,480		
普通預金	岡崎信用金庫美合支店	20,000		
普通預金	岡崎信用金庫中島支店	20,000		
普通預金	東海労働金庫岡崎支店	150,884		
普通貯金	あいち三河農業協同組合竜城支店	63,280		
普通預金	岡崎信用金庫本店（事業基金用）	2,000,076		
商品				
	コピー用紙・パウチフィルム・水切りネット	122,330		
未収金				
	乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン事業	8,052,000		
	東岡崎駅周辺まちづくりシンポジウム運営業務	1,881,000		
	地域包括ケアシステム支援業務	1,378,000		
	三郷駅前周辺まちづくりデザイン検討支援、ワークショップ支援業務	667,645		
	公園マネジメント会議運営補助業務	614,900		
	岡崎市高校生まちプロジェクト	499,400		
	行政専門家派遣3件	24,000		
	各センター・カフェ売上、物品販売、作業室、コピー機使用料	18,710		
	自動販売機手数料収入	29,629		
前払金				
	事務局家賃 令和5年4月分	100,000		
	営繕車両任意保険、メンテナンスパック 令和5年4月以降分	63,255		
	駐車場地代 令和5年4月分	54,500		
	法務顧問・顧問料 令和5年4月分	27,700		
	電子証明書手数料 令和5年4月以降分	20,790		
	普通傷害・NPO賠償保険料 令和5年4月以降分	16,298		
	レンタルコンテナ 令和5年4月分	11,250		
	警備委託料 令和5年4月～6月分	209,880		
流動資産合計			75,514,244	
2固定資産				
車両運搬具				
	営繕用軽車両1台	1		
什器備品				
	事務局パソコン1台	1		
	事務局ファイヤーウォール	57,420		
	事務局オンラインセキュリティ機器	154,661		
長期前払金				
	営繕用車両リサイクル預託金	8,400		
保証金				
	事務局	300,000		
	駐車場	61,750		
固定資産合計			582,233	
資産合計				76,096,477
II負債の部				
1流動負債				
未払金				
	職員3月分給与	7,694,840		
	設備管理・事業業務委託料	2,531,800		
	各受託事業チラシ・パンフレット等製作費、委託外注費	2,315,270		
	備品・事務用品購入、備品リース料、印刷代	719,359		
	法人負担3月分社会保険料	508,463		
	書類郵送代	26,350		
	電話料金3月分	68,730		
	出張・会議交通費等未精算分	76,587		
	税理士報酬3月分	27,500		
	電気代3月分	14,728		
預り金				
	住民税	143,500		
	源泉所得税	45,149		
	令和4年度修繕費返納金	22,160		
	共済会職員給付金	12,000		
未払消費税				
	第17期分消費税 確定申告分	3,215,000		
未払法人税等				
	第17期分法人税・地方法人税	3,532,100		
	第17期分法人県民税・法人事業税	1,362,800		
	第17期分法人市民税	242,100		
流動負債合計			22,558,436	
負債合計				22,558,436
正味財産				53,538,041